





西鶴織首世の人心

目録 四

一 家<sup>いへ</sup>主<sup>ぬし</sup>殿<sup>との</sup>の<sup>まへ</sup>真<sup>まこと</sup>柱<sup>しら</sup>

いへぬしのまへまことしら  
いへぬしのまへまことしら  
いへぬしのまへまことしら

二 命<sup>いのち</sup>に<sup>まか</sup>掛<sup>か</sup>乃<sup>の</sup>乞<sup>こ</sup>所<sup>ところ</sup>

いのちにかかるとこ  
いのちにかかるとこ  
いのちにかかるとこ



三

諸國の人と見知を修め

ふんまふれ 諸國の物

こころにれりて 諸國の心

一

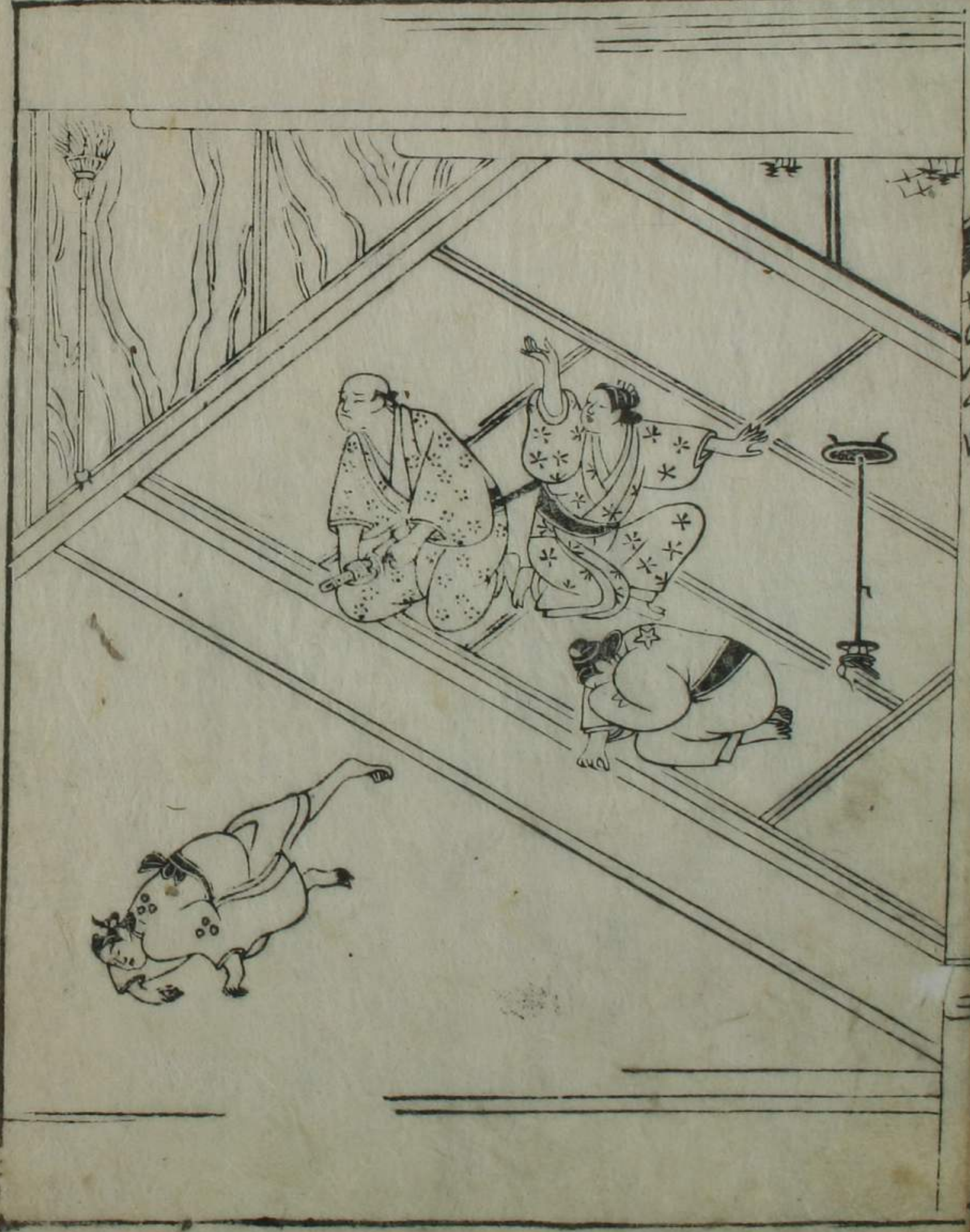
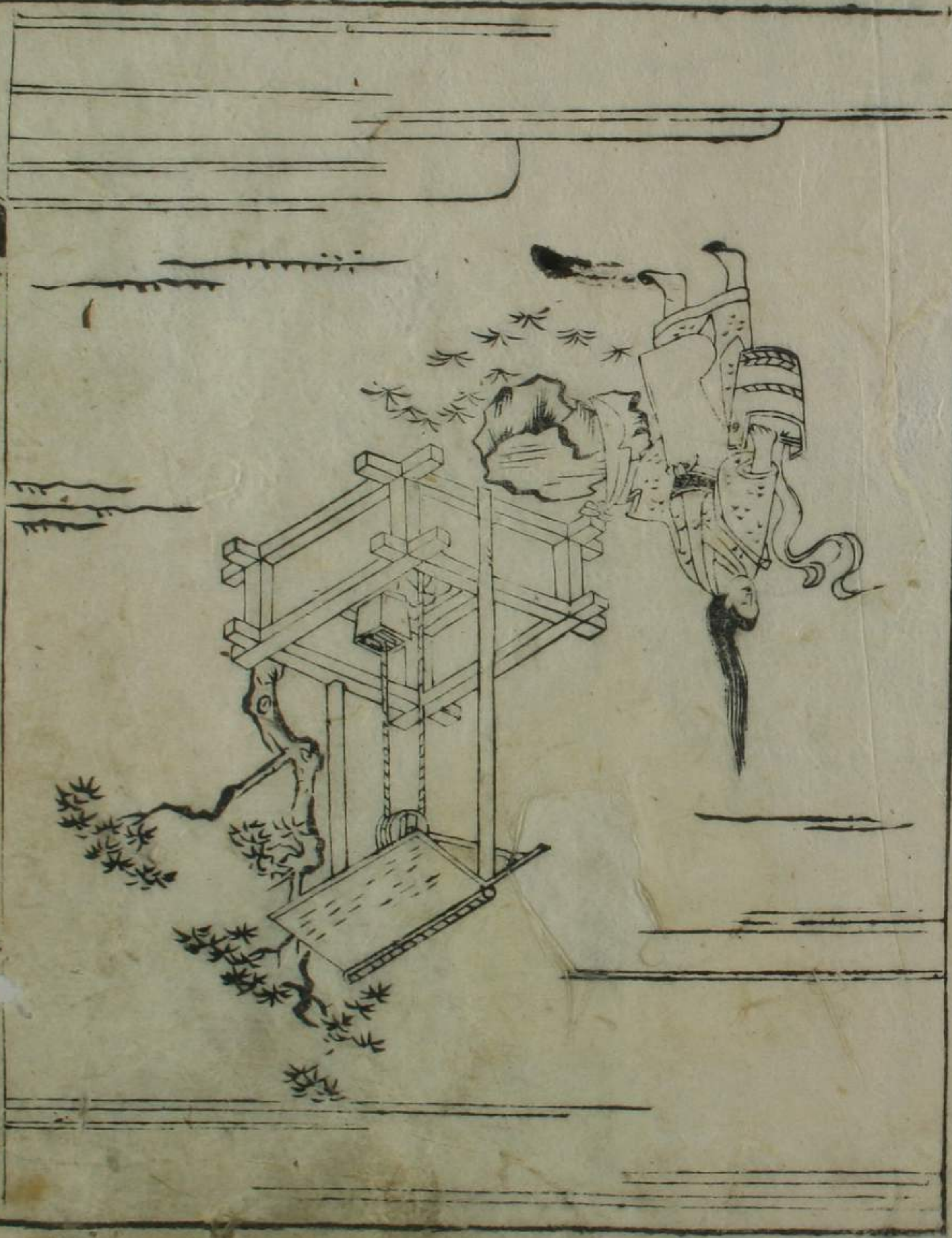
諸國の鼻ざら

商人職人よりず任ふまはるる事なれ  
石れとあまの心と作云は傳へし。世帯  
くもりもけぬよ。又宿誓乃前約行ん  
思して教との心く集り南賣んせと。二  
小書物をありと流るの人も見ゆし。馬  
子りち年ゆりち事ありと修習する  
正廣指のことあれあはるる。被り  
りあまの心くはるる。常よりい  
もあまの心くはるる。常よりい  
せ居る。後世の種を如く。下系  
とわりのまゝ。女房よ麻ふはれ。衣の











酒をとりては輿車にのりつりぬ者も縁が細きも守ねり。  
それこへ備前の娘あまが親にむかひぬ之の権備ふのつとまこ  
とふびりありまゐにぬき程あらうあてらるゝはまといふか  
あまこも望雲乃律子のぬれり子といふもは行と  
一貧かま縁をむとまゐりて。日守國の事いふ相恋に  
た合給ふよ神もを知らるゝもいふまゝ也。世にまゝに  
そのうはゆたるは前儀後儀等々なるは縁をなす天物の  
こゆんといふ人あり。女がわのこゝにこゝにぬれぬのお内家  
に生後ととんちぬものなむが今の京乃とこゝにぬれぬ  
そと同一事むりりといふ。ゆか上氣しては言れぬとてあ  
けてらるゝもいふ分する事いふもぬれぬとて言のたゝら  
りてかへらるゝも備前の男達とてとてのまがにゆれぬ

と海軍のまゝに申し候儀の没落あり。まゝに候儀を候  
候しよとて。女が氣あて思ひとてぬれぬといふ男と  
系とていふつと縁とていふ縁は裸でぬれぬといふ  
いふもぬれぬとて。我道とていふつとぬれぬといふ  
のれ死なすれとて。乃首尾とて。世にいふは。いふとて。海軍  
とて。身とて。いと。男とて。を。いふて。ぬれぬ。とて。候儀。の  
程の事。が。候儀。いふ。ら。と。ぬれぬ。肉。と。ち。屋。の。女。れ。勿。祈。い。ん  
わ。の。い。は。次。い。ふ。家。族。と。と。家。通。醒。并。町。へ。身。を。登。  
に。南。の。り。の。女。房。年。月。丸。氣。して。時。あり。す。ぬれぬ。とて。  
近。所。に。け。ま。ら。る。ふ。お。と。り。ま。と。又。い。て。六。角。堂。に。お。  
ふ。れ。ら。る。い。は。家。じ。う。か。う。送。ら。ら。れ。ま。と。い。ひ。て。夜。に  
中。梁。乃。家。を。と。と。と。寝。取。ふ。と。い。ま。て。亮。わ。と。い。ひ。







とて卒に流石へつまゆさける。東へ入らうとす  
事いひ女に形をのれすさうゆそく。想て女  
しむむさしと云ふなり。おぼれりきとさ  
憐そつ涙よ流すわらひ。又つりめりあをさし  
くくしつあつ女に別あて。是男行といひう  
ばとて救百里をさく益あり。つりめりあをさし  
つめてそ流すといひ流すに。そのまもりり  
て憐れしとあつまのまを女にすあつあつ  
強盗人目とあつ別あて。ゆらこののど人  
おそりめ人あつあつ

二 今に獄乃乞所

世に小治るる事ありとあつ子あをさしつりあ

いふれ思ふらう大坂御所と云ふすうれたかくして  
御所とあつあつらあつと云ふ。徳意の形お所乃  
裏にゆいゆりして名高字を承知と云ふ。張礼らうらわ  
り。と云ふはあつあつと云ふ。御所と云ふはあつあつ  
ゆらと云ふはあつあつと云ふ。御所と云ふはあつあつ  
らと云ふはあつあつと云ふ。御所と云ふはあつあつ  
内乃自ら教養はあつあつと云ふ。御所と云ふはあつあつ  
月將日なれど徳意の御所と云ふ。御所と云ふはあつあつ  
代われあつあつと云ふ。御所と云ふはあつあつ  
御所と云ふはあつあつと云ふ。御所と云ふはあつあつ  
大にあつあつと云ふ。御所と云ふはあつあつ  
とハあつあつと云ふ。御所と云ふはあつあつ









世の事四  
 けはよらんころめ醫書と名をて寫しに  
 程れがうらんてくけの世が難し。醫書  
 のまひまがう今れを自然の道理と  
 くらぬ時もあるべしとゆりてを。ま  
 入心ひ有るべし。入心の目録  
 なるもいひ人をもて其給れ一事  
 ありてを。是と流り。身と費てま  
 へといひける程ふ。さてもくけ月  
 取らりのひらやう。そま世は廣  
 とんて今何れもあつらへる。年  
 わるあゆり。金。舟と。徳。は  
 一と書ら。十。二月二日の



















九ノ七也。世に合ふ者、數湯小籠とて、け何の障も入ぬ  
事。作れぬ。其の事、田舎に在り、此の障へ、まに切ぬ  
切目とて、あつたなり。中め、籠とむり、きぬなり。お  
年乃、勢、後男ども、袴とて、きぬ、毎度、又、一、枚、づ、布  
きれ、つ、みて、籠の、ち、割、よ、ゆ、り、つ、つ、を、計、と、ゆ、り、つ、よ  
袴、め、く、ま、人、一、て、一日、に、ま、石、づ、き、さ、ま、け、つ、ま、石、事  
さ、る、や、さ、づ、ひ、危、丁、人、十、八、人、計、し、て、と、是、程、を、出、來、  
ぬ、し、初、也、と、あ、ゆ、り、つ、つ、ま、切、又、一、枚、づ、き、い、ま、ら、一、さ  
事、一、尺、そ、居、ら、う、ら、也、こ、れ、つ、つ、く、な、る、な、れ、り、あ、は、し、が  
着、ら、竹、よ、う、は、二、子、人、の、籠、物、お、も、中、さ、ま、と、計、す、り、  
わ、ら、り、不、思、儀、な、り、又、作、す、十、と、ま、う、又、を、廣、く、  
二十、回、と、海、河、場、で、焚、き、つ、と思、ひ、お、も、と、一、人、一、て

籠、つ、く、は、と、あ、の、け、湯、あ、り、小、子、乃、や、り、あ、る、物、と  
十、枚、づ、り、あ、つ、つ、と、焚、き、初、大、釜、に、湯、と、て、世、田、解、お  
海、籠、よ、着、二、十、枚、づ、て、今、と、ゆ、い、と、ゆ、を、あ、げ、て、長、板、上、に  
な、る、と、あ、つ、つ、お、れ、小、子、あ、く、行、き、む、ら、と、さ、ら、く、と、焚、き、  
を、ゆ、く、し、つ、る、伊、勢、の、籠、物、お、も、と、あ、る、あ、ら、い、  
い、ま、ら、一、と、さ、り、と、く、世、田、解、な、り、け、お、右、左、律、義、お、お、  
あ、り、年、中、の、あ、つ、つ、乃、身、と、を、洗、き、入、初、尾、と、り、の、初、大、籠、系、  
お、と、箱、を、な、り、下、れ、事、中、す、と、さ、ら、く、乃、さ、ら、と、あ、る、お、二、束  
を、な、ら、つ、つ、く、湯、あ、つ、つ、お、れ、人、の、き、と、ま、め、世、と、て、律、義、  
の、つ、つ、乃、あ、つ、つ、は、な、り、あ、つ、つ、人、ま、で、と、伊、勢、と、今、の、  
二、束、お、つ、つ、を、す、と、て、皆、利、義、な、り、是、れ、お、の、人、を、し、何  
者、の、い、れ、代、お、ら、い、と、め、て、世、の、月、乃、前、後、而、と、い、ふ、と、卒、つ、つ、







こころを憂ふは行て居りくまを思ひ下つて小童て文めぐつといふを  
色けるぬのさより風のまぬけ。又さむじまの神すまら  
が縁抱とのなり。に子安れまをさむつとめと中とくち  
つとぬの神と口伝をぬれぬの男と見つけるとはさか久談切  
らまさるる時。就きまの縁かさるゆうに後神よまぬぬ  
と。そ道えれ風作鳥つことと人合文雀を介して小文五つも  
六つに傳えをみよるまぬ入替うこととらむとあけぬと  
うくやうけ。新織とさるる人と掃りて年く。仔細中の  
まつり難し。是ぞ智恵方の神氣よ。新神の智恵を付  
く。道え。一魁の月は度ありぬ。又間の山の山合にむ  
と。絶女のてく小神のまぬつて。味づき。抱うること  
一。そのすくこと。ぬさるき。中はえお。ぬかすこと。

ぬりぬる女あひく。身の氣と作と云味織と。いあり。あ  
とゆわ女のともと。作がやと。うひたる。毎日ぬる。わ  
だほと。うて。まより。まゆり。あある。まぬの。細の。目  
より。ぬの。うらと。秘し。ひす。うて。残る。げ。付。々。ゆ。り。  
一。友と。ぬ。ぬ。人。あ。自。然。と。形。成。ゆ。け。り。事。と。ゆ。り。  
五。阿。比。子。より。ま。り。う。る。人。百。歳。と。あ。け。つ。ま。う。小。お。ま。り。  
ぬ。よ。あ。う。る。と。願。ひ。す。う。れ。病。と。な。て。う。い。は。し。後。に。  
ら。ま。に。ぬ。ら。ぬ。氣。か。人。ま。り。を。ぬ。と。後。百。文。あ。け。付。し。  
ま。づ。う。ら。ぬ。め。な。り。ま。う。と。世。の。人。ぬ。ら。ぬ。ま。か。り。ぬ。ぬ。じ。  
又。明。神。の。原。の。星。が。常。を。う。そ。た。け。し。は。ま。い。と。と。振。神。  
の。女。系。根。深。の。う。ら。付。る。柳。葉。ぬ。と。ま。ま。系。に。ら。り。  
形。付。ぬ。と。ま。り。と。ま。り。根。目。本。に。ま。の。女。程。白。粉。と。







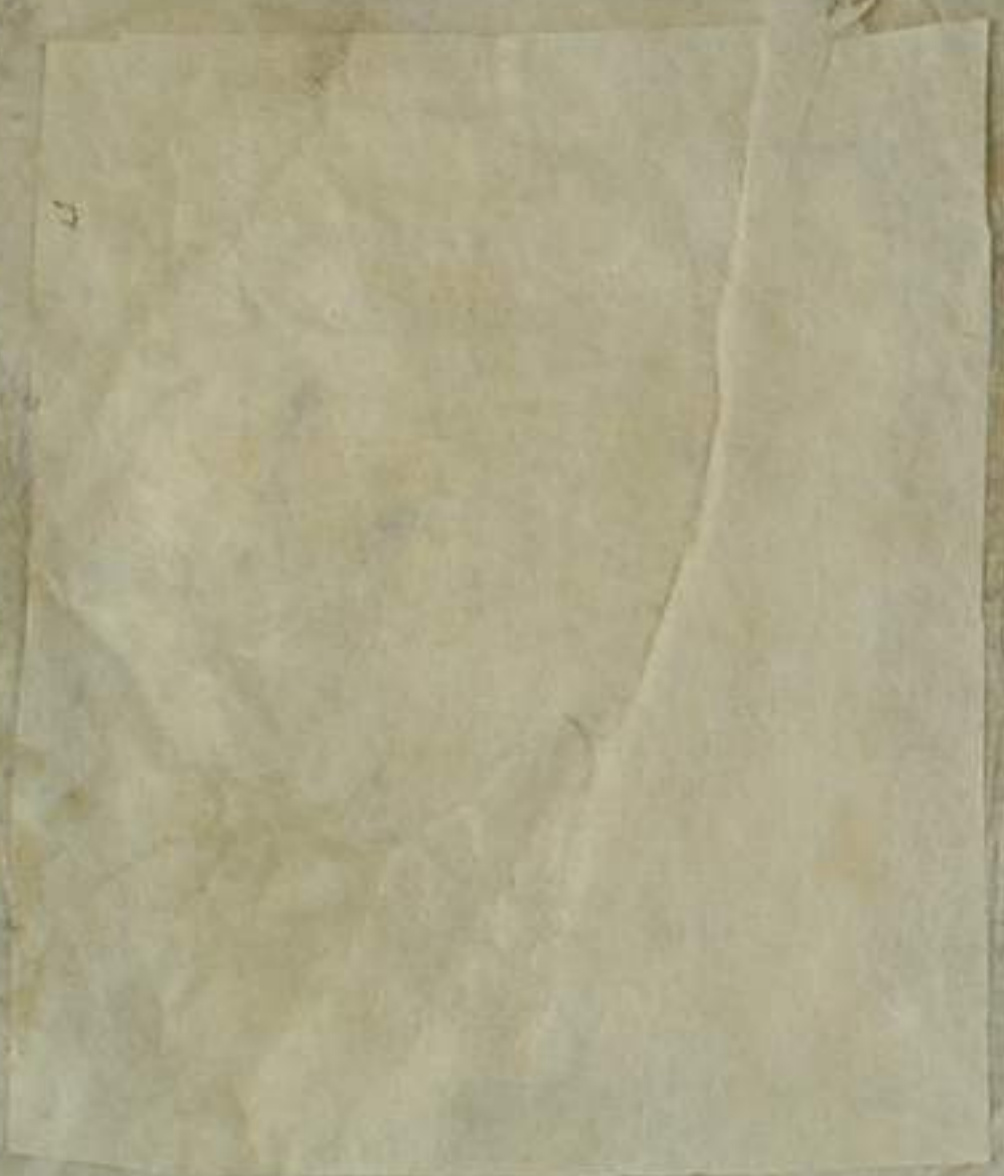
世の八人  
何てをくまづしき身なうか。又照を林と何く世の八人我如  
名尊のわが後。たれ娘のよみ月の付事。と家只一人娘成  
持るふ。つゆの昔世に周果。や南年十三。おれは今に  
定まらして。おれも。忠服とやして。見らる。くまの。と。忠服  
ん。福を。縁よ。付を。と。何れ。後て。明言。を。と。あけ。さ。月  
年程の。娘と。ん。そ。け。我。み。あ。ま。あ。つ。と。思。あ。う。な。り。也。  
個。成。と。け。し。て。終。ら。ま。る。ら。は。も。あ。ま。ら。し。と。お。れ。御。系。女  
と。ん。下。一。サ。ニ。と。乃。風。俗。人。の。目。を。行。程。あり。だ。て。お。れ。お。れ  
あ。つ。て。男。さ。う。り。れ。あ。の。者。あ。ら。し。て。通。つ。と。る。二。人。の。び  
く。は。し。つ。つ。さ。是。都。乃。と。ん。あ。い。ま。申。は。あ。ん。お。れ。あ。を  
ん。ま。せ。ぬ。と。ら。ん。び。男。目。成。細。や。し。て。世。果。と。せ。ま。い。な。し。い  
さ。ぬ。ら。つ。た。れ。何。れ。と。一。般。つ。と。せ。て。通。つ。け。る。あ。ま。ら。お。れ。お。れ

世と同じき。た。あ。ま。ら。し。し。海。祇。園。八。坂。と。の。と。ん。て。人。の。む。す  
め。な。り。今。れ。あ。の。者。が。あ。ま。と。と。せ。事。に。い。つ。づ。く。あ。り。也  
い。ま。あ。の。子。と。ま。の。か。ぐ。は。茶。屋。ま。で。あ。ら。う。く。あ。ま。て。縁  
う。けて。さ。ま。あ。道。方。ら。し。お。れ。乃。事。と。ま。ら。し。て。人。の。同。い。も  
せ。ぬ。よ。あ。ま。ら。し。ら。あ。ら。し。と。も。目。が。あ。ら。し。れ。林。果。に。あ。ま。ら。し。て  
あ。ら。し。ら。し。ゆ。で。お。れ。と。ま。と。い。く。お。れ。と。ま。と。い。く。お。れ。と。ま。と。い。く  
れ。者。と。ら。し。と。代。ま。り。と。ま。と。い。く。お。れ。と。ま。と。い。く。お。れ。と。ま。と。い。く  
後。合。男。の。わ。ら。女。房。を。ぬ。け。あ。ら。し。と。す。め。お。れ。と。ま。と。い。く。お。れ。と。ま。と。い。く  
と。進。知。ら。し。と。ま。と。い。く。お。れ。と。ま。と。い。く。お。れ。と。ま。と。い。く。お。れ。と。ま。と。い。く  
に。と。ら。し。と。ま。と。い。く。お。れ。と。ま。と。い。く。お。れ。と。ま。と。い。く。お。れ。と。ま。と。い。く。お。れ。と。ま。と。い。く  
て。め。ら。し。と。ま。と。い。く。お。れ。と。ま。と。い。く。お。れ。と。ま。と。い。く。お。れ。と。ま。と。い。く。お。れ。と。ま。と。い。く  
あ。ら。し。と。ま。と。い。く。お。れ。と。ま。と。い。く。お。れ。と。ま。と。い。く。お。れ。と。ま。と。い。く。お。れ。と。ま。と。い。く









Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a name, written vertically on the right page of the book. The text is dark and appears to be written in ink.



